

# 消防年報

令和2年版



座間市消防本部

## 座間市市民憲章

私たち座間市民は、めぐまれた自然と、文化や伝統を誇りとし、明るい街づくりのために、すべての英知をそそぐことを誓って、この憲章を定めます。

- 1、清らかな空と水、緑あふれる郷土を誇りとします。
- 1、いのちを大切にし、健やかな日々のために、力をわかちあいます。
- 1、仕事を生きがいとし、活力ある街をつくります。
- 1、学びあい、心をみがき、豊かな文化をきずきます。
- 1、思いやり、はげましあい、心と心の輪をひろげます。

昭和56年11月1日制定

## 座間市消防安全訓

- 1、点検・確認が出発点。
- 2、気をつけろ熟練した時に落とし穴。
- 3、能力の差は小さく努力の差は大きい。

# は し が き

この消防統計は、令和2年（一部令和2年度）中、令和3年3月31日及び令和3年4月1日現在における座間市の消防現勢及び消防業務に関する諸般の事項を収録し、消防事情を紹介するものです。

本書により消防の実態を御理解いただくとともに広く御活用頂ければ幸いです。

◇ この統計を作成するための資料は、消防本部の各課、消防署及び市役所関係各課の資料提供によるものです。

◇ 気象概況については、消防本部屋上に設置された観測機器により測定したもので、消防・防災活動の資料とするものです。



# 目 次

座間市の位置	1	月別消防同意申請処理状況	5 3
座間市の変遷	2	業態別消防同意申請処理状況	5 3
座間市消防のあゆみ	3	危険物関係	5 4
市勢の推移	2 6	類別危険物施設数及び許可・完成検査	
市民と消防	2 6	・廃止届	5 4
消防庁舎及び施設等状況	2 6	手数料	5 4
消防の組織	2 7	タンク容量別検査実施状況	5 4
消防本部・署・分署全景	2 8	指定数量別危険物施設数	5 5
消防本部・署・分署配置図	2 9	危険物施設届出状況	5 5
分掌事務	3 0	地域別危険物施設数	5 6
		消防法・火災予防条例届出状況	5 6
		防火管理・火災予防対策等の主な事業	5 7
		防火管理者と消防計画	6 0
		査察	6 2
		火災予防査察実施状況調	6 3
		危険物施設査察実施状況	6 4
<b>◇総務関係◇</b>			
消防予算	3 5	<b>◇通信関係◇</b>	
一般会計予算と消防予算	3 5	通信	6 5
消防費財源内訳	3 5	消防指令業務共同運用	6 5
令和2年度消防費と人口の比	3 6	無線設備の現況	6 6
消防費の推移	3 6	指令台受付件数調	6 7
消防職員	3 7	気象状況	6 9
消防職員配置状況	3 7	気象特報発令回数	6 9
消防職員階級別年齢調	3 8		
消防職員階級別勤続年数調	3 8		
		<b>◇火災関係◇</b>	
<b>◇警防関係◇</b>		火災関係	7 0
消防水利の状況	3 9	10年間火災状況調	7 1
消防本部・署現有車両調	4 3	火災状況（その1）	7 2
令和2年度導入車両	4 4	火災状況（その2）	7 3
消防機関の災害出動状況	4 6	月別火災発生状況調	7 4
消防機関の災害以外の出動状況等	4 6	建物火災出火場所別調	7 4
警防資機材保有状況	4 7	地域別火災発生調	7 5
救急資器材保有状況	4 8	10年間の火災発生調	7 5
		出火時間別火災状況調	7 6
<b>◇予防関係◇</b>			
防火対象物状況	4 9		
中高層階別防火対象物棟数	5 0		
地域別中高層階別	5 1		
建築関係	5 2		
5年間の消防同意処理件数	5 2		

出火時間別原因調	7 7
署所別火災状況調	7 8
火災原因別出火件数	7 8
火災原因別調	7 9
建物火災用途別調	7 9

## ◇救急関係◇

救急関係	8 0
出動件数	8 0
搬送人員	8 0
海老名市、座間市及び綾瀬市応援受援状況	8 1
月別救急事故種別調	8 2
月別救急出動件数調	8 3
救急事故種別出動件数	8 3
月別救急搬送人員	8 4
救急事故種別搬送人員	8 4
救急月別・傷病程度調	8 5
署所別出動件数調	8 5
地域別出動件数調	8 6
時間別出動状況調	8 7
時間別搬送人員調	8 7
救急隊員の行った応急処置に関する調	8 8
収容時間に関する調	8 9
傷病者年齢区分調	8 9
自動体外式除細動器（AED）設置場所一覧	9 0

## ◇救助関係◇

救助の体制	9 1
5年間の救助発生状況	9 1
救助出動状況調	9 2
救助出動件数及び救助人員	9 2
地域別出動件数調	9 3

## ◇水防関係◇

水防関係	9 4
風水害出動状況調	9 4
水防倉庫の状況	9 4
資機材備蓄状況	9 4
座間市水防倉庫位置図	9 5

## ◇消防団関係◇

消防団の組織等	9 6
消防団員報酬調	9 7
消防団活動状況調	9 7
消防団員出動手当等調	9 7
産業別消防団員調	9 7
消防団員勤続年数調	9 8
消防団員階級別年齢調	9 9
消防団車両の配置	1 0 0
消防団受持区域表	1 0 0
消防団現有車両調	1 0 1
消防団資機材保有状況	1 0 2
消防団器具置場の現況	1 0 3
消防団施設配置図	1 0 4

## ◇付属資料◇

防災備蓄倉庫設置一覧	1 0 5
地震防災応急対策整備状況	1 0 6
災害用飲料水貯水槽	1 0 6
生活用水施設（プール）	1 0 7
広域避難場所	1 0 7
防災行政無線設備（固定系）	1 0 8
デジタルMCA無線設置場所	1 0 9
軽可搬消防ポンプ設置一覧表	1 1 0

## 座間市の位置

方位	経度	地名	方位	緯度	地名
極東	経度 139° 26' 19" 緯度 35° 28' 48"	ひばりが丘	極北	経度 139° 25' 13" 緯度 35° 30' 56"	相模が丘
極西	経度 139° 22' 26" 緯度 35° 29' 20"	中河原	極南	経度 139° 25' 17" 緯度 35° 28' 07"	さがみ野

座間市は、首都圏40kmの内側に位置し、神奈川県のおぼ中央にあり、相模平野の一角を占めている。東部は相模原台地の高台で、住宅や工業地帯が広がり、中央に座間丘陵が南北に連なり、西部は相模川に沿って低い水田地帯が広がっている。

市の面積は、17.57km<sup>2</sup>で東西に5.3km、南北に4.0kmの広がりを持ち、東は大和市、西は相模川を隔てて厚木市に、南は海老名市、北は相模原市にそれぞれ接しています。



# 座間市の変遷

現在の市域が形成されたのは、明治22年（1889年）の市制及び町村制で、座間入谷村、座間宿村、栗原村、新田宿村、四ツ谷村の5カ村と新戸村飛地とが合併し「座間村」が誕生したときで、そのころは、米麦、養蚕を中心とした農村でした。

その後、大正から昭和初期にかけて神中線（現相模鉄道）、小田急線、相模鉄道（現JR相模線）の開通などにつれて村の様相も次第に変わり、さらに、昭和12年（1937年）に陸軍士官学校が東京市ヶ谷から移転してくるとともに町制が施行され、座間町へと発展しました。

そして、昭和16年（1941年）に上溝町及び近隣6村（現相模原市）とともに相模原町を構成しましたが、終戦後には町民からの分町機運が高まり、昭和23年（1948年）に独立し、新生「座間町」がスタートしました。

昭和20年（1945年）の終戦とともに陸軍士官学校が閉鎖され、跡地はキャンプ座間として在日米陸軍司令部が置かれ、昭和46年（1971年）から陸上自衛隊が一部共同使用しながら今日に至っています。

昭和30年代から、国のめざましい経済発展に呼応するように人口の急増など都市化が進み、昭和46年11月1日に県下17番目の市として市制を施行しました。

また、昭和50年代後半から、市域の中央部に行政・文化等の全市的公共施設を集中的、効率的に配置する「市の核づくり計画」に取り組み、平成6年に市民体育館、平成7年には市庁舎及び市民文化会館、平成8年には市民健康センター及びふれあい会館、平成13年には総合福祉センターが誕生しました。

現在では、人口も約13万人と、市の将来像として描いた「ともに織りなす 活力と個性 きらめくまち」を目指し、県央の中核的都市として着実な発展を続けています。

## 座間市消防のあゆみ

年 月	消 防 本 部	消 防 団
明治32年 ～昭和14年		消防組として部落自衛消防を自主的に組織する。
昭和14年 ～昭和20年		戦時中町的な組織として警防団を編成する。
昭和16年11月		相模原8ヶ町村の合併団結により相模原町警防団の中に合併する。
昭和23年 3月		消防組織法発令とともに相模原町座間消防団として新発足10ヶ分団編成団員600名
昭和23年 9月		当市が相模原町から分離独立し座間町消防団となる。 初代消防団長 山田 和夫氏就任
昭和26年 3月		初代消防団長 山田 和夫氏退任
昭和26年 4月		2代目消防団長 若林 則氏就任
昭和29年 3月		日本消防協会から竿頭授授与
昭和30年 3月		2代目消防団長 若林 則氏退任
昭和30年 4月		3代目消防団長 瀬戸 俊孝氏就任
昭和36年 3月		3代目消防団長 瀬戸 俊孝氏退任
昭和36年 4月		4代目消防団長 長谷川 秀太郎氏就任
昭和37年 9月		第12回神奈川県消防操法大会において優秀賞を獲得
昭和38年12月	消防本部分団結成、役場職員20名で消防団常備部として発足、昼夜出動体制をとる。小型動力ポンプ付積載車1台、庶務課消防係担当	消防団10ヶ分団を5ヶ分団に統合団員600名を345名に減員
昭和40年 4月	消防常備体制準備のため職員1名採用	
昭和40年 7月	職員1名採用	
昭和41年 4月	消防課設置消防士5名役場職員から転属。課長1名、係長1名、消防士5名、事務員1名（女性職員）計8名とし、同時に本部分団10名減員、消防団から本部要員30名を指名消防士に援助させる。 小型動力ポンプ付積載車1台	消防団員を314名に減員



年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和41年 7月	消防士7名採用、実員15名となる。 救急車1台配備 小型動力ポンプ付積載車1台配備 6名あて隔日勤務に入る。 本部分団解散	
昭和41年 8月	消防士2名採用、実員17名となる。	
昭和41年10月	消防ポンプ自動車1台購入配備、積載車は消防団に配備	
昭和42年 2月		日本消防協会から消防団表彰旗授与される。
昭和42年 4月	消防本部設置（非指定）初代消防長に稲垣 功氏就任（兼任）新たに消防士4名採用 実員22名となる。 町長部局へ1名出向、町長部局から2名出向	消防団員270名に減員
昭和42年 5月	消防指令車1台購入配備、超短波無線電話機基地局1局、車載用2局購入	
昭和42年10月	消防署設置（非指定）危険物関係事務 県防災消防課より引継ぎ規制事務を開始する。危険物施設（155） 消防士1名退職、実員21名となる。	
昭和43年 1月	初代消防長 稲垣 功氏退任 2代目消防長 片野 敏氏就任	
昭和43年 2月	消防士3名採用、実員24名となる。	
昭和43年 4月	消防士2名採用、町長部局へ1名出向 実員25名となる。 超短波無線電話機携帯局1局購入 気象観測計器購入配備	消防団員246名に減員
昭和43年 6月	消防士1名採用、実員26名となる。	
昭和43年 8月	消防士1名採用、実員27名となる。 政令指定され昭和44年4月1日より施行と決定する。	
昭和43年 9月	超短波無線電話機携帯局2局購入	消防ポンプ自動車新規購入第2分団に配備（更新）
昭和43年12月	消防士2名採用、実員29名となる。	
昭和44年 1月	町長部局へ1名異動、町長部局から1名出向、実員29名 超短波無線電話機携帯局1局購入	
昭和44年 2月	消防士1名採用、実員30名となる。	
昭和44年 3月		4代目消防団長 長谷川 秀太郎氏退任

年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和44年 4月	政令指定適用される。消防士1名採用 実員31名となる。水槽付消防ポンプ 自動車1台配備（本署）	消防団員231名に減員 5代目消防団長 本多 佳治氏就任
昭和44年 8月	消防士4名採用、町長部局へ1名出向 実員34名となる。	
昭和45年 3月	救急車1台購入配備	
昭和45年 4月	消防士1名採用、町長部局へ1名出向 実員34名となる。	消防団員215名に減員
昭和45年 8月	消防士1名採用、実員35名となる。	
昭和45年11月		小型動力ポンプ付積載車1台購入配備 （更新）
昭和45年12月	消防庁舎落成、鉄筋コンクリート造り 2階建、延面積643.5㎡、町長部 局より1名出向、実員36名となる。	
昭和46年 1月	町長部局から2名出向（女性職員）、実 員38名となる。	
昭和46年 3月	2代目消防長 片野 敏氏退任 消防士1名採用、実員39名となる。	
昭和46年 4月	3代目消防長 金子 四郎氏就任 消防士1名採用、実員40名となる。	
昭和46年 5月	消防士2名採用、実員42名となる。	
昭和46年 6月	指令車1台廃車	
昭和46年 7月	消防士1名採用、2名退職 実員41名となる。	
昭和46年 8月	指令車1台購入配備	小型動力ポンプ付積載車2台購入配備 （更新）
昭和46年 9月	消防士1名採用 実員42名となる。	
昭和46年10月	消防士1名採用、1名退職 実員42名となる。	小型動力ポンプ付積載車1台購入配備 （更新）
昭和46年12月	訓練塔竣工	
昭和47年 1月	消防士1名採用、実員43名となる。	
昭和47年 4月	消防士4名採用、実員47名となる。	
昭和47年 8月		第3分団第5部新設、小型動力ポンプ 付積載車1台配備 消防団員224名に増員 第22回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
昭和47年 9月	3代目消防長 金子 四郎氏退任	
昭和47年10月	4代目消防長 稲垣 功氏就任	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和47年11月	超短波無線電話機を郵政省令の改正に基づき挟帯化に切替える基地局1局、車載用5局、携帯用7局	
昭和48年 4月	消防士4名採用、市長部局へ1名出向 実員50名となる。	消防団員223名に減員
昭和48年 8月		第23回神奈川県消防操法大会において優良賞獲得
昭和48年 9月		第2分団第3部・小型動力ポンプ付積載車1台配備（更新）
昭和48年10月		第1分団第3部・小型動力ポンプ付積載車1台配備（更新）
昭和49年 1月		第3分団第4部・消防ポンプ自動車配備（更新）
昭和49年 7月	消防士1名採用、実員51名となる。	
昭和49年 8月	救急車1台購入配備、超短波無線電話機車載用1局購入 計6局	第24回神奈川県消防操法大会において優良賞獲得
昭和49年11月	消防士1名採用、実員52名となる。	
昭和49年12月		第4分団第1部・小型動力ポンプ付積載車に替え、消防ポンプ自動車配備 第2分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新） 第2分団第2部・器具置場新設
昭和50年 2月	携帯局1局購入 計8局	
昭和50年 8月		第25回神奈川県消防操法大会において優秀賞獲得
昭和50年 9月	消防士1名退職、実員51名となる。	第1分団第1部・小型動力ポンプ付積載車に替え、消防ポンプ自動車配備
昭和50年10月	相模原市と119番転送装置取扱協定書締結	
昭和51年 3月	指揮車1台購入配備（消防署） 業務連絡車1台購入配備（消防本部）	第2分団第3部・第3分団第1部・第3分団第5部・第4分団第2部待機室建設
昭和51年 7月	市長部局から3名出向、実員54名となる。	
昭和51年 8月		第26回神奈川県消防操法大会において最優秀賞獲得
昭和51年10月	消防士3名採用、実員57名となる。	
昭和51年11月	はしご付消防ポンプ自動車1台購入配備（消防署）	
昭和51年12月	市長部局から出向の職員1名退職、実員56名となる。消防ポンプ自動車1台購入配備（消防署） 超短波無線電話機車載用1局購入 計7局	第2分団第2部・小型動力ポンプ付積載車配備（新規）

年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和52年 2月	査察車1台購入配備（消防本部） 超短波無線電話機携帯用2局購入 計10局	
昭和52年 5月	市長部局から1名出向、実員57名となる。	
昭和52年 8月		第27回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
昭和52年10月	消防士7名採用実員64名となる。 超短波無線電話機車載用1局購入 計8局	第5分団第2部・小型動力ポンプ付積 載車配備（更新）
昭和53年 2月	救急自動車1台配備（消防署）	第1分団第2部、第1分団第3部車 庫・待機室改築 第2分団第1部待機室新築 第4分団第3部車庫・待機室新築
昭和53年 3月		第5分団第1部・消防ポンプ自動車配 備（更新）
昭和53年 4月	消防士7名採用、実員71名となる。	
昭和53年 7月	4代目消防長 稲垣 功氏退任 5代目消防長 金子 四郎氏就任	
昭和53年 8月	第8回全国消防救助技術大会 はしご登はんに出場	第28回神奈川県消防操法大会 において優秀賞獲得
昭和53年10月	消防士5名採用、実員76名となる。 機構改革により危険物係（新設）	
昭和53年12月	東分署開署に伴い化学消防ポンプ自動 車1台購入配備	
昭和54年 1月	消防士1名採用、1名退職 実員76名となる。	
昭和54年 2月	東分署開署に伴い広報車1台購入配 備、超短波無線電話機携帯用4局購入 計14局	第3分団第1部・小型動力ポンプ付積 載車に替え消防ポンプ自動車配備 第1分団第2部・小型動力ポンプ付積 載車配備（更新）
昭和54年 3月	超短波無線電話機車載用1局購入 計9局	5代目消防団長 本多 佳治氏退任
昭和54年 4月	消防士8名採用、実員84名となる。 東分署開設（鉄筋コンクリート造、床 面積380.45㎡）	6代目消防団長 谷田 要氏就任
昭和54年 8月		第29回神奈川県消防操法大会 において優秀賞獲得
昭和54年 9月	水槽付消防ポンプ自動車1台配備（本 署）	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和54年10月	東分署救急業務開始に伴い救急車1台配備、機構改革により、消防本部に総務課（庶務係、企画係）予防課（審査係、指導係）を新設、消防署に管理室を設け、当直隊に主幹を置く。	第4分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
昭和54年11月	超短波無線電話機携帯用2局購入計16局	
昭和54年12月	5代目消防長 金子 四郎氏退任 6代目消防長 稲垣 要氏就任 消防ポンプ自動車1台配備（本署） 超短波無線電話機車載用3局購入計12局	第3分団第3部・小型動力ポンプ付積載車に替え消防ポンプ自動車配備
昭和55年 3月	本部庁舎増築（鉄骨造延床面積227.7㎡）電話交換機購入設置	
昭和55年 4月	消防士6名採用、実員90名となる。	
昭和55年 6月		第4分団第2部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
昭和55年 8月		第30回神奈川県消防操法大会において優良賞獲得
昭和55年10月	超短波無線電話機車載用4局購入計16局	
昭和55年12月	指令車購入 超短波無線電話機携帯用1局廃止、計15局 広報車1台購入、消防本部に配備	
昭和56年 4月	市長部局へ1名出向、市長部局から1名出向、消防士4名採用、実員94名となる。	
昭和56年 8月		第31回神奈川県消防操法大会において優秀賞獲得
昭和56年10月	6代目消防長 稲垣 要氏退任 7代目消防長 大矢 勉氏就任 消防士3名採用、実員97名となる。 超短波電話無線機車載用3局購入、計19局、消防ポンプ自動車1台購入配備（東分署）、広報車1台購入配備（消防本部）	第4分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
昭和57年 1月		第4分団第1部車庫・待機室新築 車載用受令機16台配備

年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和57年 4月	市長部局へ1名出向、市長部局から1名出向、消防士4名採用、実員101名となる。	
昭和57年 8月	7代目消防長 大矢 勉氏退任 8代目消防長 吉山 武治氏就任 第11回全国消防救助技術大会 ほふく救出に出場	第32回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
昭和57年12月		第3分団第2部・消防ポンプ自動車配備(更新)
昭和58年 2月	超短波無線電話機車載用2局更新	
昭和58年 3月		第1分団第1部車庫・待機室新築 日本消防協会から竿頭授与 6代目消防団長 谷田 要氏退任
昭和58年 4月	消防士3名採用、実員104名となる。	7代目消防団長 中村 知司氏就任
昭和58年 8月		第2分団第1部・消防ポンプ自動車配備(更新) 第33回神奈川県消防操法大会 において優秀賞獲得
昭和58年10月	機構改革により消防本部総務課に防災係を置く。市長部局から3名出向、消防士3名採用、実員110名となる。救急車1台配備(消防署)、防災車1台配備(消防本部)	
昭和58年11月	北分署開署に伴い、広報車1台、消防ポンプ自動車1台購入配備 超短波無線電話機車載用2局購入 計21局、超短波無線電話機携帯用3局購入 計18局	
昭和58年12月	8代目消防長 吉山 武治氏退任 消防長事務取扱 中村 孟氏就任	
昭和59年 1月	消防長事務取扱 中村 孟氏退任 9代目消防長 大矢 勉氏就任 市長部局へ1名出向、実員109名となる。	
昭和59年 4月	消防士2名採用、市長部局へ2名出向、市長部局から2名出向、実員111名となる。北分署開署(鉄筋コンクリート造、床面積448.78㎡)	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和59年 8月		第34回神奈川県消防操法大会において最優秀賞獲得
昭和59年 9月		第3分団第5部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
昭和59年10月	北分署救急業務開始（救急車1台配備）	
昭和59年12月	超短波無線電話機車載用1局、可搬用2局購入、車載用1局更新 計24局	
昭和60年 2月	消防士長1名退職、実員110名となる。	
昭和60年 3月	救急指令装置B型配備、超短波無線電話機車載用1局購入、車載用2局更新 計25局 事務吏員1名、消防士1名退職、実員108名となる。	第2分団第1部車庫新築 7代目消防団長 中村 知司氏退任
昭和60年 4月	市長部局へ2名出向、市長部局から2名出向、実員108名となる。 消防テレホンサービス開始 TEL0462（51）0119	8代目消防団長 森田 源養氏就任
昭和60年 9月		第1分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新） 座間市消防団消防操法合同訓練会
昭和60年10年	消防士3名採用、市長部局へ1名出向、市長部局から1名出向、実員111名となる。 超短波無線電話機車載用1局廃止 計24局	
昭和61年 3月	消防庁長官から竿頭授与される。 （消防本部、消防団）	第5分団第2部車庫・待機室新築
昭和61年 4月	市長部局へ1名出向、市長部局から1名出向、消防士1名退職、実員110名となる。	
昭和61年 7月	救急自動車1台更新（寄贈）	
昭和61年 8月		第35回神奈川県消防操法大会において優良賞獲得
昭和61年10月	消防士1名採用、実員111名となる。	
昭和61年11月		第2分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
昭和62年 1月	消防ポンプ自動車1台更新	
昭和62年 4月	市長部局へ2名出向、市長部局から2名出向、消防士3名採用、実員114名となる。	
昭和62年 9月		第1回座間市消防団消防操法大会

年 月	消 防 本 部	消 防 団
昭和62年10月	指揮車1台更新	
昭和62年12月	救助工作車Ⅱ型1台購入配備、広報車1台更新、超短波無線電話機車載用1局購入 計25局、超短波無線電話機携帯用2局購入3局更新 計20局	第2分団第2部・小型動力ポンプ付積載車配備(更新)
昭和63年 2月		第2分団第3部車庫・待機室新築
昭和63年 3月	消防司令補1名退職、実員113名となる。	
昭和63年 4月	消防士2名採用、市長部局へ2名出向、市長部局から2名出向、実員115名となる。	
昭和63年 7月	査察車1台更新	
昭和63年 8月		第36回神奈川県消防操法大会において優秀賞獲得
昭和63年 9月		第5分団第2部・小型動力ポンプ付積載車配備(更新)
昭和63年11月	超短波無線電話機車載用1局更新 計25局、携帯用4局更新 計20局 消防士1名退職、実員114名となる。	
平成 元年 2月	消防士1名退職、実員113名となる。 危険物屋内貯蔵所新築	
平成 元年 3月	9代目消防長 大矢 勉氏退任 消防無線用パンザマスト設置	8代目消防団長 森田 源養氏退任 第3分団第5部車庫・待機室新築
平成 元年 4月	10代目消防長 森田 実氏就任 消防士4名採用、市長部局へ1名出向、市長部局から1名出向、実員117名となる。	9代目消防団長 鈴木 茂氏就任
平成 元年 7月	市長部局へ1名出向、市長部局から1名出向実員117名となる。	
平成 元年 9月	救急自動車1台更新	第2回座間市消防団消防操法大会
平成 元年11月	水槽付消防ポンプ自動車1台更新 超短波無線電話機車載用2局更新 計25局、携帯用2局更新 計20局	
平成 2年 3月		第3分団第4部・消防ポンプ自動車配備(更新) 第5分団第1部車庫・待機室新築
平成 2年 4月	消防士3名採用、市長部局へ1名併任出向、市長部局へ1名出向、市長部局から1名出向、実員120名となる。	



年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成 2年 5月	相模川において水難救助活動中職員 1 名が殉職、実員 1 1 9 名となる。 化学消防ポンプ自動車 1 台更新 (寄贈)	
平成 2年 7月	指令車 1 台更新 広報車 1 台更新 資機材搬送車 1 台更新 超短波無線電話機車載用 2 局購入 計 2 7 局、携帯用 2 局更新 計 2 0 局	第 3 7 回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
平成 2年 9月	救急車 1 台更新 (寄贈)	
平成 2年 10月		第 4 分団第 1 部・消防ポンプ自動車配備 (更新)
平成 3年 3月	消防庁舎増築、はしご車車庫移転 機構改革により消防署に第 1 警備課・ 第 2 警備課を新設する。	第 3 分団第 1 部車庫・待機室新築
平成 3年 4月	消防士 6 名採用、市長部局へ 3 名出向、 市長部局から 1 名出向、実員 1 2 3 名 となる。	
平成 3年 8月	座間市立野台地区女性消防隊発足	第 3 回座間市消防団消防操法大会
平成 3年 9月	広報車 1 台更新 (東分署) 超短波無線電話機車載用 1 局購入 計 2 8 局、携帯用 2 局購入 計 2 2 局	第 1 分団第 2 部・小型動力ポンプ付積 載車配備 (更新)
平成 3年 10月	1 5 m 級はしご付消防ポンプ自動車 1 台購入配備	
平成 3年 11月		第 1 分団第 1 部・消防ポンプ自動車配 備 (更新) 元消防団長 森田 源養氏勲 6 等瑞宝 章を授与される。
平成 3年 12月	消防ポンプ自動車 (CD-I) 1 台更 新	
平成 4年 3月	消防司令 1 名退職、実員 1 2 2 名とな る。	第 3 分団第 3 部車庫・待機室新築 消防団長 鈴木 茂氏消防庁長官から 永年勤続功労章を授与される。
平成 4年 4月	消防士 6 名採用、市長部局から 1 名併 任出向を解かれる、市長部局へ 1 名併 任出向、市長部局へ 1 名出向、実員 1 2 7 名となる。次長制度導入	
平成 4年 5月	消防士 1 名退職、実員 1 2 6 名となる。	
平成 4年 7月	広報車 1 台更新 (企画係) 防災広報車 1 台更新	第 3 8 回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成 4年 8月	第 2 1 回全国消防救助技術大会 はしご登はんに出場	第 4 分団第 2 部・小型動力ポンプ付積 載車配備（更新）
平成 4年 9月	超短波無線電話機車載用 1 局更新 計 2 8 局、携帯用 2 局更新 計 2 2 局 救急車 1 台更新 自動車電話機 1 機購入	第 5 分団第 1 部・消防ポンプ自動車配 備（更新）
平成 4年 12月		第 3 分団第 2 部車庫・待機室新築
平成 5年 3月	1 0 代目消防長 森田 実氏退任 実員 1 2 5 名となる。	
平成 5年 4月	1 1 代目消防長 山田 正明氏就任 消防士 1 0 名採用、市長部局から 1 名 併任出向を解かれる。 市長部局へ 3 名出向、市長部局から 3 名出向、実員 1 3 5 名となる。	
平成 5年 7月	超短波無線電話機車載用 1 局更新 計 2 8 局、携帯用 3 局更新 計 2 2 局	
平成 5年 8月		第 4 回座間市消防団消防操法大会
平成 5年 11月		第 4 分団第 3 部・小型動力ポンプ付積 載車配備（日本消防協会寄贈）
平成 6年 3月		第 3 分団第 4 部車庫・待機室新築
平成 6年 4月	消防士 3 名採用、市長部局へ 1 名併任 出向、市長部局へ 2 名出向、市長部局 から 1 名出向、実員 1 3 7 名となる。	
平成 6年 7月		第 3 9 回神奈川県消防操法大会 において、優秀賞獲得
平成 6年 9月	超短波無線電話機車載用 1 局更新 計 2 8 局、携帯用 1 局更新 計 2 2 局	
平成 6年 11月	救急救命士 1 名養成（計 1 名）	
平成 6年 12月		第 3 分団第 1 部・第 3 部消防ポンプ自 動車配備（更新）
平成 7年 1月	兵庫県南部地震災害に救助応援隊派遣 救急自動車 1 台配備（寄贈）	
平成 7年 3月	兵庫県南部地震災害応援隊派遣により 神奈川県知事から感謝状を授与され る。 高規格救急自動車 1 台配備（寄贈）	
平成 7年 4月	消防士 3 名採用、実員 1 4 0 名となる。	元消防団長 本多 佳治氏勲 5 等瑞宝 章を授与される。
平成 7年 5月	消防庁長官から阪神淡路大震災の応援 活動に対し感謝状を授与される。	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成 7年 8月	第24回全国消防救助技術大会 応用登はんに出場	第5回座間市消防団消防操法大会
平成 7年11月	救急救命士2名養成(計3名)	元消防団長 谷田 要氏勲6等瑞宝章 を授与される。
平成 8年 3月	消防庁長官から消防庁長官表彰旗を授 与される。	9代目消防団長 鈴木 茂氏退任
平成 8年 4月	市長部局から1名併任出向を解かれ る。市長部局へ1名出向、市長部局か ら1名出向 消防士3名採用、実員143名となる。	10代目消防団長 中村 壽志氏就任
平成 8年 6月		第4分団第2部車庫・待機室新築
平成 8年 7月		第40回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
平成 8年 9月	超短波無線電話機携帯用3局更新 計22局 車載用計28局	
平成 8年10月	消防士1名退職、実員142名となる。	
平成 8年12月	救急救命士2名養成(計5名)	第3分団第2部・消防ポンプ自動車配 備(更新)
平成 9年 2月	38m級はしご付消防自動車1台更新 (消防署) 消防ポンプ自動車1台(CD-I型)更 新(東分署) 超短波無線電話機車載用1局更新 計28局、携帯用計22局	
平成 9年 3月	11代目消防長 山田 正明氏退任 超短波無線電話機車載用1局更新 計28局、携帯用計22局	
平成 9年 4月	12代目消防長 入部 昇氏就任 市長部局から1名出向、市長部局へ2 名出向 消防士5名採用、実員145名となる。	
平成 9年 7月		第6回座間市消防団消防操法大会
平成 9年11月	指揮車1台更新 救急救命士1名養成(計6名)	
平成 9年12月	高規格救急自動車1台更新 広報車1台更新(庶務係) 超短波無線電話機携帯用4局更新	第2分団第1部・消防ポンプ自動車配 備(更新)
平成10年 3月	消防司令長1名退職 立野台消防施設等(女性消防隊車庫・ 待機室及び防災備蓄倉庫)新築 女性消防隊小型動力ポンプ付積載車1 台配備 超短波無線電話機車載用1局更新	10代目消防団長 中村 壽志氏退任

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成10年 4月	市長部局から1名出向、市長部局へ1名出向 消防士3名採用、実員147名となる。	11代目消防団長 坂本 文彦氏就任
平成10年 6月	救急救命士1名養成（計7名）	
平成10年 7月		第41回神奈川県消防操法大会 において優秀賞獲得
平成10年 8月	第27回全国消防救助技術大会 応用登はん・ほふく救出に出場	
平成10年10月	超短波無線電話機携帯用4局更新	
平成10年11月	超短波無線電話機車載用2局更新	第3分団第5部・小型動力ポンプ付積 載車配備（更新）
平成10年12月	救急救命士1名養成（計8名）	
平成11年 2月	消防ポンプ自動車1台（CD-I型） 更新（北分署）	
平成11年 3月	消防本部庁舎耐震補強工事	
平成11年 4月	機構改革により市長部局に総務部防災 課を置く。 市長部局へ3名併任出向、市長部局へ 1名出向、実員146名となる。	
平成11年 7月		第7回座間市消防団消防操法大会
平成11年 8月	第28回全国消防救助技術大会 斜めブリッジ救助に出場	
平成11年 9月	広報車1台更新（審査係）	
平成11年11月	超短波無線電話機携帯用2局購入 計24局	
平成12年 2月		第1分団第3部・小型動力ポンプ付積 載車配備（更新）
平成12年 3月	12代目消防長 入部 昇氏退任 消防司令長1名退職	11代目消防団長 坂本 文彦氏退任
平成12年 4月	13代目消防長 香取 利光氏就任 市長部局へ2名出向（1名併任）、市長 部局から1名出向 市長部局から1名併任出向解かれる。 消防士3名採用、実員147名となる。	12代目消防団長 本多 英雄氏就任
平成12年 5月	救急救命士1名養成（計9名）	
平成12年 7月		第42回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
平成12年 8月	資機材搬送車1台更新（消防署）	
平成12年 9月	超短波無線電話機車載用2局、携帯用 2局更新	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成12年11月	救急救命士1名養成(計10名)	第2分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備(更新)
平成13年 1月	緊急消防援助隊、消火部隊1隊登録	
平成13年 2月		第2分団第2部・小型動力ポンプ付積載車配備(更新)
平成13年 3月	消防司令長1名退職	
平成13年 4月	市長部局へ1名併任出向 市長部局から1名併任出向解かれる。 消防士3名採用、実員149名となる。	
平成13年 5月	消防司令補1名退職	
平成13年 7月	査察車1台更新(指導係)	第8回座間市消防団消防操法大会
平成13年 8月	指令車1台更新	
平成13年11月	超短波無線電話機可搬式2局、携帯用4局更新 救急救命士1名養成(計11名)	
平成13年12月	新通信指令装置運用開始	
平成14年 2月	高規格救急自動車1台更新 消防ポンプ自動車(CD-1型)1台更新(消防署)	
平成14年 3月	13代目消防長 香取 利光氏退任 消防司令長1名退職	12代目消防団長 本多 英雄氏退任
平成14年 4月	14代目消防長 石井 康正氏就任 市長部局へ2名出向(1名併任) 消防士3名採用、実員148名となる。	13代目消防団長 澤田 善光氏就任
平成14年 7月		第43回神奈川県消防操法大会において優良賞獲得 平成14年度、神奈川県・座間市・相模原市水防演習(相模原市新戸地先)
平成14年10月	災害救助資機材搬送車1台購入配備	
平成14年11月	超短波無線電話機車載用1局、携帯用3局更新 救急救命士1名養成(計12名)	
平成15年 2月	救助工作車(Ⅱ型)1台更新(本署)	第5分団第2部・小型動力ポンプ付積載車配備(更新)
平成15年 3月	水槽付消防ポンプ自動車1台更新 消防司令長2名退職 超短波無線電話機車載用1局更新	
平成15年 4月	市長部局へ1名併任出向 市長部局から1名併任出向を解かれる。 消防士2名採用、実員148名となる。	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成15年 7月	広報車1台更新（東分署） 超短波無線電話機車載用1局 携帯用3局更新	第9回座間市消防団消防操法大会
平成15年 8月	広報車1台更新（企画係） 消防司令1名退職	
平成15年11月	救急救命士1名養成（計13名）	
平成15年12月	高規格救急自動車1台更新（東分署） 消防司令1名退職	
平成16年 3月	消防司令長1名退職 消防司令 3名退職 14代目消防長 石井 康正氏退任	13代目消防団長 澤田 善光氏退任
平成16年 4月	15代目消防長 増井 京市氏就任 消防士5名採用、実員146名となる。 市長部局から1名併任出向を解かれる。	14代目消防団長 片野 光司氏就任
平成16年 7月		第44回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
平成16年10月	新潟県中越地震災害に緊急消防援助隊 として余震警戒活動派遣及び救援物資 搬送 超短波無線電話機車載用2局 携帯用4局更新	
平成16年12月	消防庁長官から新潟県中越地震におけ る緊急援助隊の応援活動に対し褒状を 授与される。	
平成17年 1月		第3分団第4部及び第4分団第1部、 消防ポンプ自動車配備（更新）
平成17年 2月	超短波無線電話機車載用1局更新	（財）日本消防協会から竿頭綬が授与 される。
平成17年 3月	消防司令長1名退職	
平成17年 4月	4月1日をもって新機構改革施行 市長部局へ1名併任出向 市長部局から1名併任出向を解かれ る。 消防士2名採用、実員147名となる。	
平成17年 5月	救急救命士1名養成（計14名）	
平成17年 7月		第10回座間市消防団消防操法大会
平成17年 9月	消防司令補1名退職	
平成17年12月	超短波無線電話機車載用3局 携帯用6局更新	第1分団第2部・小型動力ポンプ付積 載車配備（更新）

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成18年 2月	高規格救急自動車1台更新(北分署)	
平成18年 3月	消防司令長1名退職	14代目消防団長 片野 光司氏退任
平成18年 4月	緊急消防援助隊、救急部隊1隊登録 消防士3名採用、実員148名となる。 11代目消防長消防監 山田 正明氏 叙勲(瑞宝双光章)を授与される。	15代目消防団長 鈴野 俊夫氏就任
平成18年 5月	救急救命士1名養成(計15名)	
平成18年 7月		第45回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得
平成18年 8月	第35回全国消防救助技術大会 ほふく救出に出場	
平成18年11月		第1分団第1部・消防ポンプ自動車配 備(更新)
平成18年12月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台 更新(北分署) 超短波無線電話機車載用4局 携帯用1局更新	
平成19年 3月	15代目消防長 増井 京市氏退任 消防司令長3名退職 消防司令 1名退職 消防士 1名退職 元消防司令長 大矢 武史氏 叙勲(瑞宝単光章)を授与される。	
平成19年 4月	16代目消防長 高橋 富夫氏就任 消防士5名採用、実員147名となる。 市長部局へ1名併任出向 市長部局から1名併任出向解かれる。	元消防団長 鈴木 茂氏瑞宝単光章を 授与される。
平成19年 5月	救急救命士1名養成(計16名)	
平成19年 7月		第11回座間市消防団消防操法大会
平成19年 8月	第36回全国消防救助技術大会 ロープ応用登はんに出場	
平成19年 9月		第4分団第2部・小型動力ポンプ付積 載車配備(更新)
平成20年 1月	超短波無線電話機車載用1局 携帯用2局更新	
平成20年 3月	消防司令長3名退職	
平成20年 4月	消防士4名採用・実員148名となる。	
平成20年 5月	救急救命士2名養成(計18名)	
平成20年 7月		第46回神奈川県消防操法大会 において優良賞獲得

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成20年10月	消防無線基地局整備（市波・救急波を市役所に増設）	
平成20年11月		第4分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
平成21年 1月	超短波無線電話機車載用1局 携帯用2局更新	
平成21年 3月	高規格救急自動車1台更新（本署） 16代目消防長 高橋 富夫氏退任 消防司令長1名退職 消防司令 1名退職	（財）神奈川県消防協会から竿頭綬が授与される。
平成21年 4月	17代目消防長 林 正純氏就任 消防士3名採用、実員148名となる。 市長部局へ1名併任出向 市長部局から1名併任出向解かれる。	
平成21年 5月	救急救命士1名養成（計19名）	
平成21年 7月	会議室1棟新築50.78㎡（リース）	第12回座間市消防団消防操法大会
平成22年 1月	高規格救急自動車1台更新（東分署）	
平成22年 2月	広報車1台更新（本署） 指揮車1台更新（本署） 超短波無線電話機車載用1局 携帯用2局更新	
平成22年 3月	消防相互援助協約締結（改訂） 座間市及び在日米陸軍	15代目消防団長 鈴野 俊夫氏退任
平成22年 4月	12代目消防長 入部 昇氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝双光章）を授与される。 市長部局から1名併任出向解かれる。	16代目消防団長 川島 健三氏就任
平成22年 5月	救急救命士1名養成（計20名）	平成22年度水防演習
平成22年 7月	第39回全国消防救助技術大会 ロープ応用登はんに出場	第47回神奈川県消防操法大会 において優秀賞獲得
平成22年11月	13代目消防長 香取 利光氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝双光章）を授与される。 超短波無線電話機携帯用4局更新	
平成23年 3月	消防司令長 4名退職 消防司令 1名退職 消防司令補 1名退職 東日本大震災に伴い、緊急消防援助隊として宮城県に消火部隊、福島県に救急部隊を派遣 はしご付消防ポンプ自動車（15m級）1台更新（本署）	第5分団第1部・消防ポンプ自動車配備（更新）



年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成23年 4月	14代目消防長 石井 康正氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝双光章）を授与される。 元消防司令長 椎野 悟氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝単光章）を授与される。 消防士4名採用（救急救命士3名含む）、実員146名となる。 再任用制度により、3名を再任用する。 市長部局から1名併任出向解かれる。	
平成23年 5月	救急救命士1名養成。（計24名）	
平成23年 7月	通信指令装置運用機器更新	第13回座間市消防団消防操法大会
平成23年11月	元消防司令長 大木 紀一氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝単光章）を授与される。	
平成23年12月	海老名市、座間市及び綾瀬市消防通信指令事務協議会を設置する。	
平成24年 2月	消防ポンプ自動車（CD-I型）1台更新（東分署）	
平成24年 3月	消防司令長 2名退職 消防司令 2名退職 再任用職員 1名退職	16代目消防団長 川島 健三氏退任
平成24年 4月	消防士6名採用（女性救急救命士1名含む）、実員148名となる。 再任用制度により、1名を再任用する。 消防司令補 1名退職 消防士 1名退職 実員146名となる。 元消防司令長 田中 敏夫氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝双光章）を授与される。	17代目消防団長 田中 賢一氏就任
平成24年 5月	救急救命士1名養成（計26名）	
平成24年 7月		第48回神奈川県消防操法大会において優良賞獲得
平成24年 8月	第41回全国消防救助技術大会はしご登はんに出場	
平成24年10月	消防署北分署改築工事 消防司令 2名退職（1名救命士） 実員144名となる。	第3分団第1部・消防ポンプ自動車配備（更新）
平成24年11月	元消防司令長 大塚 賢次氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝単光章）を授与される。	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成25年 3月	消防司令長 2名退職 化学消防ポンプ付自動車(Ⅱ型) 1台更新(東分署)	
平成25年 4月	消防士6名採用(女性消防吏員2名・救急救命士2名内女性救急救命士1名含む) 実員148名となる。 再任用制度により、2名を再任用する。	
平成25年 4月	15代目消防長 増井 京市氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を授与される。 元消防司令長 清水 勝男氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を授与される。	
平成25年 5月	救急救命士1名養成(計28名)	
平成25年 6月	広報車1台更新(審査係)	
平成25年 7月		第14回座間市消防団消防操法大会
平成25年11月	消防司令長 1名退職 元消防司令長 吉川 進氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を授与される。 元消防司令長 片倉 春夫氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を授与される。 元消防司令長 濱川 洋平氏 叙勲(瑞宝双光章)を授与される。	第3分団第3部・消防ポンプ自動車配備(更新)
平成26年 1月	高規格救急自動車1台更新(北分署)	
平成26年 3月	17代目消防長 林 正純氏退任 消防司令長 1名退職 消防司令 1名退職 消防司令補 2名退職(1名救命士)	17代目消防団長 田中 賢一氏退任
平成26年 4月	18代目消防長 篠崎 光平氏就任 消防士6名採用(救急救命士1名含む) 実員148名となる。 再任用制度により、1名を再任用する。	18代目消防団長 鈴木 文也氏就任
平成26年 5月	元消防司令長 市川 安男氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を授与される。 救急救命士1名養成(計29名)	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成26年 7月		第49回神奈川県消防操法大会において最優秀賞獲得
平成26年11月	消防司令 1名退職	第24回全国消防操法大会において準優勝獲得 第3分団第2部・消防ポンプ自動車配備(更新)
平成26年12月	消防署東分署改築工事	
平成27年 1月	資機材搬送車1台更新(本署)	
平成27年 2月	署活動用無線局32局(400MHz)運用開始	
平成27年 3月	消防司令 2名退職	
平成27年 4月	消防士4名採用(救急救命士1名含む) 実員149名となる。 再任用制度により、2名を再任用する。 海老名市・座間市・綾瀬市消防指令センター(海老名市柏ヶ谷1047番地3)開所、消防救急デジタル無線運用開始 緊急消防援助隊、後方支援小隊登録	
平成27年 5月	救急救命士1名養成(計31名)	
平成27年 6月	消防司令 1名退職 査察車1台更新(指導係)	
平成27年 7月		第15回座間市消防団消防操法大会
平成27年 8月	第44回全国消防救助技術大会 ほふく救出に出場	
平成27年10月		第2分団第1部・消防ポンプ自動車配備(更新)
平成27年11月	16代目消防長 高橋 富夫氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を授与される。 元消防司令長 高橋 義一氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を授与される。 人員搬送車1台配備(寄付)	
平成28年 3月	18代目消防長 篠崎 光平氏退任 消防司令長 5名退職 消防司令 1名退職 消防司令補 1名退職 再任用職員 2名退職	18代目消防団長 鈴木 文也氏退任

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成28年 4月	19代目消防長 落合 勝男氏就任 元消防司令長 井上 昇氏 危険業務従事者叙勲（瑞宝単光章）を授与される。 消防士9名採用（救急救命士3名含む） 実員149名となる。 再任用制度により、3名を再任用する。 高規格救急自動車1台配備（増強）	19代目消防団長 京免 康彦氏就任
平成28年 5月	150MHz帯 消防・救急無線（アナログ波）廃止する。 救急救命士1名養成（計35名）	
平成28年 6月	座間総合病院派遣型ワークステーション運用開始	
平成28年 7月		第50回神奈川県消防操法大会において優秀賞獲得
平成28年 8月	第45回全国消防救助技術大会はしご登はんに出場	
平成28年11月		第3分団第5部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
平成29年 3月	消防司令 1名退職 消防副士長 1名退職	
平成29年 4月	消防士6名採用 実員153名となる。 再任用制度により、1名を再任用する。 本署救急隊増隊により4隊運用開始	
平成29年 5月	救急救命士1名養成（計36名）	
平成29年 8月	第46回全国消防救助技術大会ほふく救出に出場	第16回座間市消防団消防操法大会
平成29年12月	高規格救急自動車1台更新（消防署） 再任用職員 1名退職	
平成30年 1月		第1分団第3部・小型動力ポンプ付積載車配備（更新）
平成30年 2月	消防庁舎落成、鉄筋コンクリート造り4階建、延面積5,238.06㎡ 消防本部創立50周年記念式典を挙行	
平成30年 3月	災害救助資機材搬送車1台更新 消防司令 1名退職 消防副士長 1名退職	19代目消防団長 京免 康彦氏退任

年 月	消 防 本 部	消 防 団
平成30年 4月	消防士3名採用(救急救命士1名含む) 実員154名となる。 再任用制度により、1名を再任用する 本署消防隊の増強により4隊運用開始 元消防司令長 野頭 忠明氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を 授与される。	20代目消防団長 齋藤 通泰氏就任
平成30年 5月	救急救命士1名養成(計37名)	平成30年度水防演習
平成30年 7月		第51回神奈川県消防操法大会 において最優良賞獲得
平成30年10月	消防司令補 1名退職	第26回全国消防操法大会 において優良賞獲得
平成30年11月	高規格救急自動車1台更新(東分署) 消防ポンプ自動車(CD-I型)1台 更新(本署)	第2分団第3部・小型動力ポンプ付積 載車配備(更新)
平成31年 1月	広報車1台更新(警防係)	
平成31年 2月		第1分団第2部車庫・待機室新築
平成31年 3月	19代目消防長 落合 勝男氏退任 消防司令 1名退職 消防副士長 1名退職 再任用職員 1名退職	
平成31年 4月	20代目消防長 山田 淳氏就任 消防士5名採用(救急救命士1名含む) 実員155名となる。 再任用制度により、1名を再任用する。 (市長部局からの出向) 消防士 1名退職	
令和 元年 5月	救急救命士1名養成(計38名) 元消防司令長 船田忠成氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝単光章)を 授与される。	
令和 元年 7月		第17回座間市消防団消防操法大会
令和 元年11月	17代目消防長 林 正純氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝双光章)を 授与される。 元消防司令長 吉澤 喜好氏 危険業務従事者叙勲(瑞宝単光章)を 授与される。	
令和 元年12月	消防司令 1名退職	第2分団第2部・小型動力ポンプ付積 載車配備(更新)
令和 2年 1月	水槽付消防ポンプ自動車1台更新(消 防署)	

年 月	消 防 本 部	消 防 団
令和 2年 2月	女性消防隊広報車1台更新(消防本部)	
令和 2年 3月	消防司令長 4名退職 再任用職員 1名退職	(公財)日本消防協会から特別表彰 「まとい」を授与される。 20代目消防団長 齋藤 通泰氏退任
令和 2年 4月	消防士6名採用(救急救命士3名含む) 実員155名となる。 再任用制度により4名を再任用する。 消防本部に警防課(警防係、地域消防 係)を新設する。 消防司令補 1名退職	21代目消防団長 八木 正純氏就任
令和 2年 5月	救急救命士1名養成(計39名)	
令和 2年 8月	消防副士長 1名退職 消防士 1名退職	
令和 2年10月	北分署広報車1台更新(北分署)	
令和 2年12月		第5分団第2部・小型動力ポンプ付積 載車配備(更新)
令和 3年 2月	3.5m級はしご付消防自動車1台更新 (消防署) 消防士 1名退職	
令和 3年 3月	20代目消防長 山田 淳氏退任 高規格救急自動車更新(北分署) 消防監 1名退職 消防司令長 1名退職 消防司令 4名退職 再任用職員 3名退職	
令和 3年 4月	21代目消防長 宮野 敬氏就任 消防士10名採用(救急救命士3名含 む) 実員155名 再任用制度により5名を再任用する。	

# 市 勢 の 推 移

各年度4月1日現在

区 分		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
面 積		17.57 k m <sup>2</sup>				
人 口 ( 人 )		129,277	129,387	130,160	130,686	130,716
世 帯 数 ( 世 帯 )		57,019	57,663	58,778	59,609	60,175
1世帯当たりの人口(人)		2.27	2.24	2.21	2.19	2.17
1 k m <sup>2</sup> あたり	人口(人)	7,358	7,364	7,408	7,438	7,440
	人口(世帯)	3,192	3,281	3,345	3,392	3,392

※ 人口と世帯数は、平成27年国勢調査速報値を基礎として住民基本台帳法および戸籍法に定める届け出などの増減を調整して推計したもの。

# 市 民 と 消 防

令和3年4月1日現在

消防職員	条例定数	実員	消防ポンプ車	消防署	5台
	175人	155人			
消防団員	条例定員	実員		消防団	16台
	223人	191人			

消防職員 1人に対し	人口(人)	843	消防ポンプ車 1台に対し	消防署	人口(人)	26,143
	世帯(世帯)	388			世帯(世帯)	12,035
	面積(k m <sup>2</sup> )	0.11			面積(k m <sup>2</sup> )	3.51
消防団員 1人に対し	人口(人)	684		消防団	人口(人)	8,169
	世帯(世帯)	315			世帯(世帯)	3,760
	面積(k m <sup>2</sup> )	0.09			面積(k m <sup>2</sup> )	1.09

# 消防庁舎及び施設等状況

令和3年4月1日現在

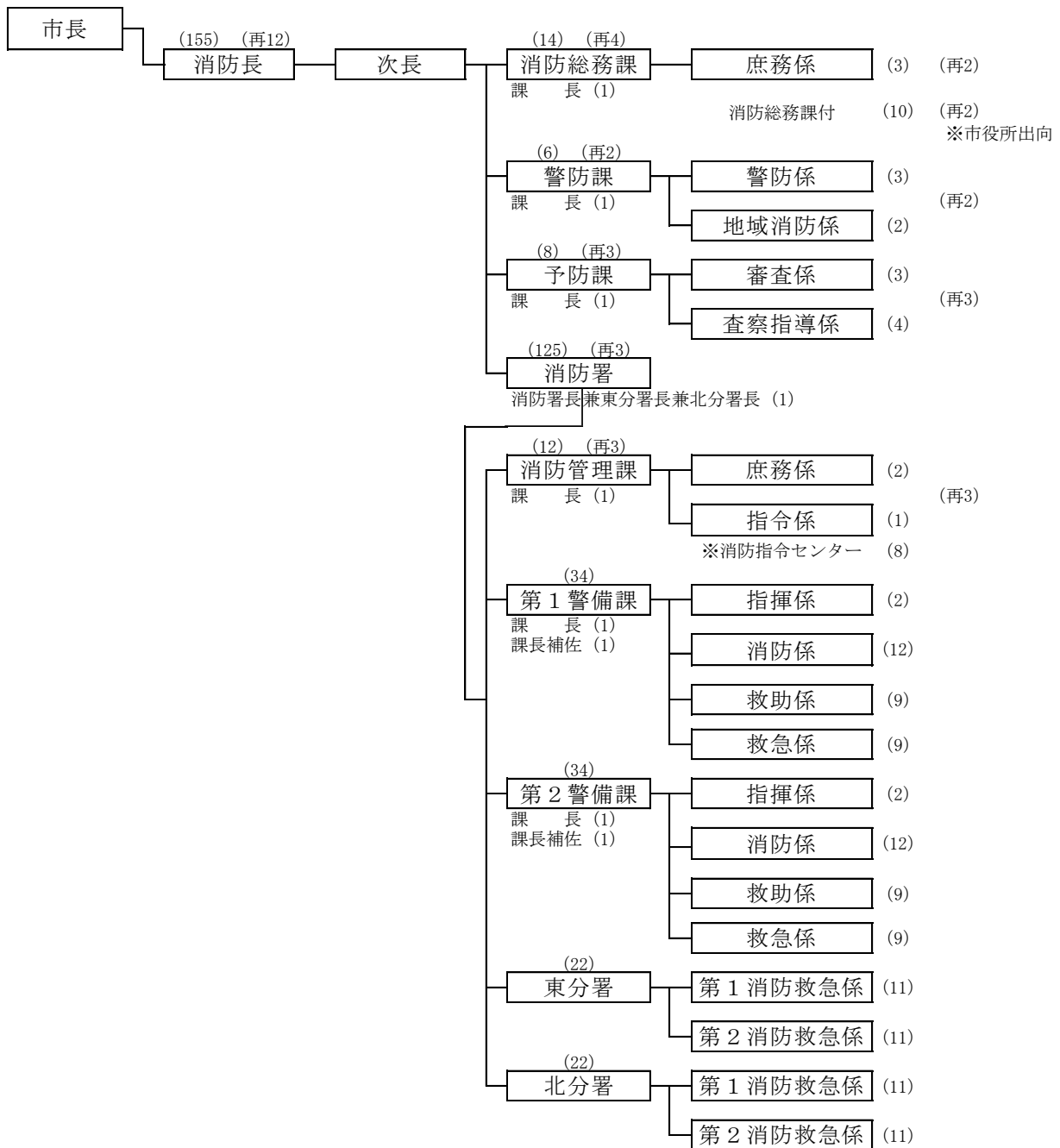
署所別	所在地	竣工年	建築構造	建築延面積	敷地面積
本部 消防署	相武台一丁目48番1号 電話 046-256-2211	平成30年	鉄筋コンクリート造4階建	5,238 m <sup>2</sup>	4,798.10 m <sup>2</sup>
東分署	東原二丁目7番11号 電話 046-256-2400	昭和54年	鉄筋コンクリート造1階建	380.450 m <sup>2</sup>	1,030.00 m <sup>2</sup>
北分署	相模が丘四丁目2番48号 電話 046-253-2166	昭和59年	鉄筋コンクリート造2階建	448.787 m <sup>2</sup>	1,181.56 m <sup>2</sup>
その他	立野台三丁目4番3号	平成10年	重量鉄骨ラーメン構造2階建	54.000 m <sup>2</sup>	594.84 m <sup>2</sup>

# 消 防 の 組 織

管轄面積は、17.57km<sup>2</sup>で、常備消防における組織体制は、1本部3課、1署3課2分署で、指揮隊、救助隊、消防隊4隊、救急隊4隊を運用するとともに、はしご車、化学車等を配備し、消防長以下155人である。そして、これらの施設機材を活用し、13万の市民の生命、身体、財産を火災から保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除及びこれらの災害による被害を軽減するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行うことを任務としている。

座間市消防組織図

令和3年4月1日現在



※ ( ) の数字は人数、(再) の数字は再任用の人数



# 消防本部・署・分署全景

本部・消防署



東分署

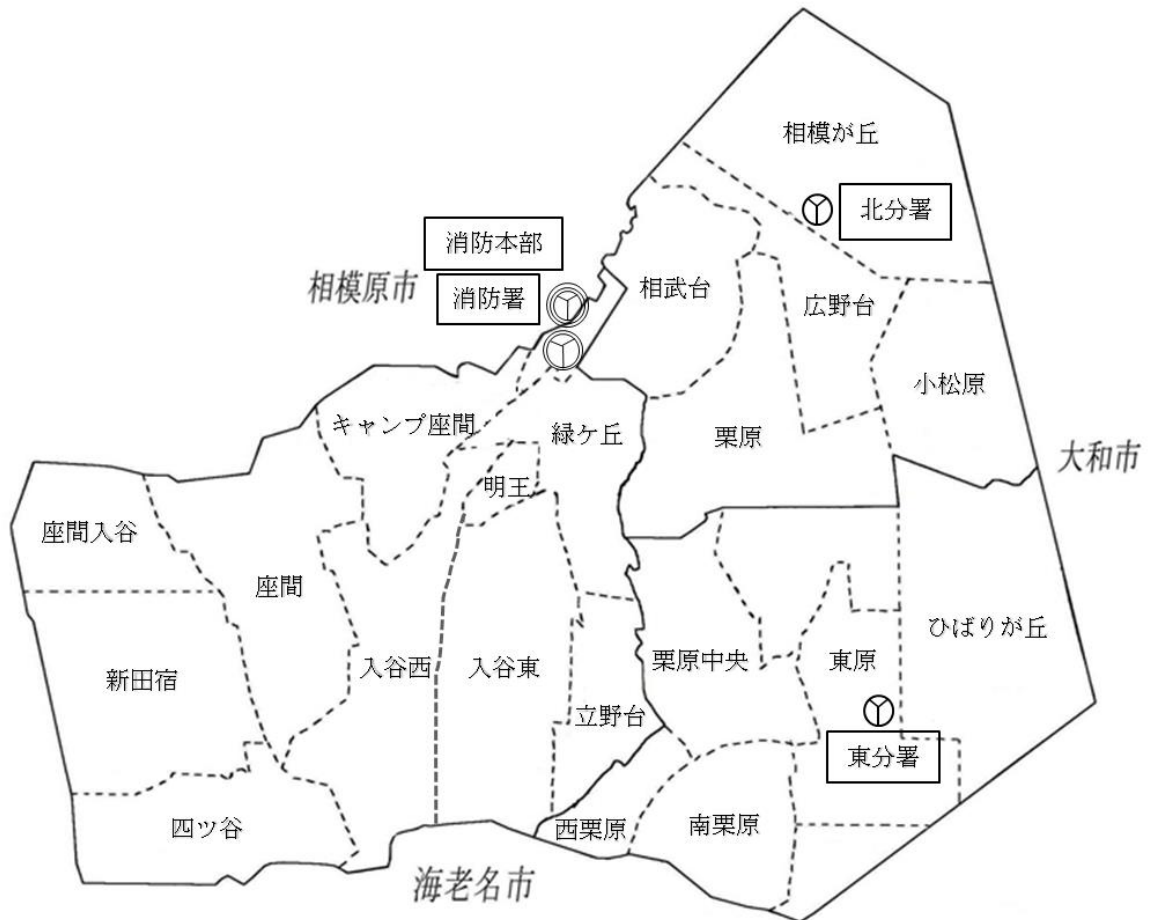


北分署



# 消防本部・署・分署配置図

凡 例	
	消 防 本 部
	消 防 署
	分 署
	受持区域線
	地区境界線



# 分 掌 事 務

## 消防本部

### 消防総務課

#### 庶務係

- 1 儀式に関すること
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 職員の身分、服務、研修、福利厚生等に関すること。
- 4 規則、規程等の制定、改正及び廃止に関すること。
- 5 会議及び渉外に関すること。
- 6 消防施設整備基金に関すること。
- 7 消防用財産の取得及び管理に関すること。
- 8 表彰に関すること。
- 9 公務災害補償に関すること。
- 10 消防職員委員会に関すること。
- 11 消防職員衛生委員会に関すること。
- 12 消防償慰金等審査委員会に関すること。
- 13 消防功労審査会に関すること。
- 14 消防本部の設備の維持管理に関すること。
- 15 自家用給油取扱所の設備に関すること。
- 16 訓練棟の維持管理に関すること。
- 17 市民防災啓発施設等の利用に関すること。
- 18 課内の予算調整及び執行管理に関すること。
- 19 本部内及び課内の庶務並びに課内の他の係に属さないこと。

### 警防課

#### 警防係

- 1 消防計画、水防計画その他消防に係る各種計画に関すること。
- 2 消防力の整備指針に関すること。
- 3 消防情報及び統括統計に関すること。
- 4 消防水利の整備及び管理に関すること。
- 5 緊急消防援助隊、各種応援、訓練等に関すること。
- 6 開発行為等に対する協議検査に関すること。
- 7 消防装備及び施設機器材の研究開発に関すること。
- 8 車両の更新に関すること及び本部の車両の整備管理に関すること。
- 9 課内の予算調整及び執行管理に関すること。
- 10 課内の庶務その他課内の係に属さないこと。

#### 地域消防係

- 1 消防団の庶務に関すること。
- 2 消防団の研修、教育訓練等に関すること。

- 3 消防団の公務災害補償に関すること。
- 4 消防団操法大会に関すること。
- 5 消防団施設及び消防団設備の整備並びに管理に関すること。
- 6 女性消防隊に関すること。

## 予防課

### 審査係

- 1 危険物施設、消防施設等の審査、検査、点検報告及び手数料に関すること。
- 2 建築許可等の同意に関すること。
- 3 火気使用設備等の届出に関すること。
- 4 防火対象物の使用開始届出に関すること。
- 5 少量危険物及び指定可燃物の届出に関すること。
- 6 液化石油ガス販売事業所の許可等に関する意見に関すること。
- 7 所管に係る統計に関すること。
- 8 火災と紛らわしい煙等を発するおそれのある行為の届出に関すること。
- 9 指定催しの指定及び露店等の開設の届出に関すること。
- 10 劇場等以外の建築物等における催物の開催の届出に関すること。
- 11 課内の予算調整及び執行管理に関すること。
- 12 課内の庶務その他課内の他の係に属さないこと。

### 査察指導係

- 1 防火作品、消防思想の啓発、普及宣伝及び消防相談に関すること。
- 2 防火管理者、危険物取扱者及び保安監督者の指導並びに講習に関すること。
- 3 防火対象物に係る消防計画、点検報告等の審査及び指導に関すること。
- 4 防火対象物及び危険物施設の査察に関すること。
- 5 火災予防行政の技術の研究及び指導に関すること。
- 6 特異火災及び大規模火災の原因並びに損害の調査に関すること。
- 7 火災の統計及び分析に関すること。
- 8 消防協力団体等の指導育成に関すること。
- 9 り災証明等に関すること。

## 消防署

### 消防管理課

#### 庶務係

- 1 公印の管理に関する事。
- 2 消防署内事務事業の調整に関する事。
- 3 消防署の設備の維持管理に関する事。
- 4 消防署員の教育及び訓練に関する事。
- 5 消防職員の安全運転管理に関する事。
- 6 消防署の整備管理に関する事。
- 7 消防活動に支障を及ぼす行為の届出に関する事。
- 8 各種証明書の発行に関する事。
- 9 消防署内の予算調整及び執行管理に関する事。
- 10 消防署内の庶務に関する事。
- 11 消防訓練、施設見学、救命講習等に関する事。
- 12 メディカルコントロールに関する事。
- 13 水道の断減水の届出に関する事。

#### 指令係

- 1 消防隊等の出動指令に関する事。
- 2 一般消防業務電話の接受及び消防情報の収集に関する事。
- 3 火災警報に関する事。
- 4 災害情報に関する事。
- 5 気象情報に関する事。
- 6 各種統計に関する事。
- 7 消防用通信の運用及び機器の維持管理に関する事。
- 8 海老名市・座間市・綾瀬市消防指令センターとの連絡調整に関する事。
- 9 海老名市、座間市及び綾瀬市消防通信指令事務協議会に関する事。
- 10 その他通信業務に関する事。

### 本署第1警備課・本署第2警備課

#### 指揮係

- 1 災害現場の指揮に関する事。
- 2 災害現場の現場広報に関する事。
- 3 水災害、地震等の警戒及び防御に関する事。
- 4 災害現場の情報収集及び分析に関する事。
- 5 火災の概要に関する事。
- 6 各種統計に関する事。
- 7 警防計画及び査察に関する事。
- 8 消防署員及び消防団員の警備活動に関する事。
- 9 消防署員の教育及び訓練に関する事。
- 10 消防訓練指導に関する事。

- 1 1 課内の庶務に関すること。
- 1 2 り災証明等に関すること。
- 1 3 その他指揮業務に関すること。

#### 消防係

- 1 水火災、地震等の警戒及び防御に関すること。
- 2 災害現場の情報収集及び分析に関すること。
- 3 火災の概要に関すること。
- 4 火災の原因調査、損害その他災害調査に関すること。
- 5 各種統計に関すること。
- 6 消防地水利調査に関すること。
- 7 警防計画及び査察に関すること。
- 8 消防機械器具の点検及び整備に関すること。
- 9 消防思想の普及及び宣伝に関すること。
- 1 0 消防訓練指導に関すること。
- 1 1 り災証明等に関すること。
- 1 2 その他消防業務に関すること。

#### 救助係

- 1 救助に関すること。
- 2 消防訓練指導に関すること。
- 3 警防計画及び査察に関すること。
- 4 水火災、地震等の警戒及び防御に関すること。
- 5 救助資機材等の点検及び整備に関すること。
- 6 救助統計に関すること。
- 7 消防地水利調査に関すること。
- 8 危険物施設の管理に関すること。
- 9 高圧ガス充てん施設に関すること。
- 1 0 その他救助業務に関すること。

#### 救急係

- 1 救急に関すること。
- 2 救急訓練指導に関すること。
- 3 警防計画及び査察に関すること。
- 4 水火災、地震等の警戒及び防御に関すること。
- 5 応急手当等の普及及び啓蒙活動に関すること。
- 6 救急高度化の推進に関すること。
- 7 メディカルコントロールに関すること。
- 8 救急資機材等の点検及び整備に関すること。
- 9 救急統計に関すること。
- 1 0 消防地水利調査に関すること。
- 1 1 その他救急業務に関すること。

## 東分署・北分署

### 第1 消防救急係・第2 消防救急係

- 1 公印の管理に関する事。
- 2 水火災、地震等の警戒及び防御に関する事。
- 3 救助及び救急に関する事。
- 4 消防地水利調査に関する事。
- 5 警防計画及び査察に関する事。
- 6 分署設備の維持管理に関する事。
- 7 消防・救急資機材の点検及び整備に関する事。
- 8 消防活動に支障を及ぼす行為の届出に関する事。
- 9 り災証明等に関する事。
- 10 消防思想の普及及び宣伝に関する事。
- 11 火災原因調査、損害その他災害の調査に関する事。
- 12 消防訓練指導に関する事。
- 13 消防・救急統計に関する事。
- 14 救急指導に関する事。
- 15 応急手当等の普及及び啓蒙活動に関する事。
- 16 救急高度化の推進に関する事。
- 17 メディカルコントロールに関する事。
- 18 高圧ガス充てん施設に関する事。(北分署に限る。)
- 19 その他消防・救急業務に関する事。
- 20 分署内の庶務に関する事。
- 21 火災とまぎらわしい煙等を発するおそれのある行為の届出に関する事。
- 22 露店等の開設の届出に関する事。